

開学10周年にあたって



奈良先端科学技術大学院大学前学長・名誉教授

山田康之

奈良先端科学技術大学院大学が創立10周年を迎えられたこと本学の学長経験者の一人として心から祝意を表したい。

10年と言えば短い様でもあるが、それだけの年月の重さを充分に感じる。生まれたての赤子も10年たてば小学校高学年となり、自我がだんだんと芽生えてきて、親の言うことにも従わなくなる。ましてや、大学院大学において10年という年月は大学としての自我が確立し、自己の進むべき方向も自覚するに十分な年月であろう。この10年の年月の内、最も成長の盛んな後半の4ケ年間を学長として勤めさせて頂いた。学長当時は大学を自分の正しいと信ずる方向へ成長させることに懸命であり、多くの立派な教職員の皆様の協力を得て、その管理運営に励めることが出来たのは、この上ない幸であった。学長退任後、1ケ年を経た現在、振り返ってみると、自分の様な学長職に不適格な者がよく4年間学長職を勤めることが出来たと驚くと共に、無事に勤め終えたことに感謝するのみである。

学長のリーダーシップとよく云われる。大学の管理運営に当たって、学長は大学の創設の理念に基づいて自己の信念をもって事柄を決定しなければならないと思う。多くの執行部の教職員の意見を傾聴することは重要であるが、意見を聞く以前に自分なりの考え、方針がなければ、大学としての進む方向に一貫性を示すことが困難であろう。まず、自分の考えを披瀝して、それに対する相手の見解、意見を聴かない限り、学長としてのリーダーシップは取れないと思っている。奈良先端科学技術大学院大学が国際的な先端科学技術の研究領域においてその独創性と独自の方向性をもって発展されることを念願している。

大学に於けるその存在意義は屢々その大学の研究成果によって評価される。このことは、研究成果が非常に具体的であり、しかも数ケ年で現れて来るからである。そのため大学の評価までその研究成果で行われる場合がある。しかし、その研究成果と同等、または、それ以上に重要な大学の使命に人間教育がある。従来大学院における指導は急速な発展を見せる研究指導に重点があった。それは高等教育機関として学生諸君に高度の科学技術を習得させることは当然のことであるが、現在の大学に於ける指導を見る時、余りにも人間としての基本的な倫理、それは科学者としての倫理、人間としての社会倫理とも云える教育が欠除している様に思っている。先端科学技術は未踏の研究領域へ踏み込む科学技術である。科学者としての未知の世界の解明は人類に対して大きな貢献をする可能性と共に、人類の幸を奪う可能性をも含んでいる。奈良先端科学技術大学院大学は創造的な基礎研究を通して国際的に貢献することが期待されている。本学における学生諸君が一科学者としての先端科学技術の研究に邁進されると共に、一人間としての社会倫理を自覚され、また教官諸氏も真の人類に役立つ科学技術の教育をされることを10周年に当たり願っている。

これからの10年、創立20周年を迎えられる時、本学がどの様に成長して、人類の幸に役立つ高等教育機関となっているか非常に楽しみである。

本学の創立に当たって苦楽を共にしてきた多くの皆様と共に開学10周年を満腔から祝福し、将来の発展を祈念したい。